

4
2013

主題 (2012/2013)		
国際会長	Be the light of the world 「世を照らす光となろう」	Share your blessings in love 「恵みを愛もて分かち合おう」
アジア会長	Years bring wisdom 「歳月はY'Sをワイズ(賢者)にする」	Action vitalize life with strength 「行動が活力を呼び覚ます」
西日本区理事	Let Y'smen Light Shine before Others In the club, in the community in the world 「先頭に立ってワイズの光を輝かそう クラブで、地域で、国際社会で」	
中西部長	Let's nurture Y's dynamic spirit! 「ワイズの活力を育てよう」	
大阪クラブ会長	Let's spread the Y's spirit 「広げよう ワイズメンのこころ意気」	

会長	北村 知三	村 知三	大盛	三盛
直前会長	牟本 清	水本 清	大汎	汎
副会長	脇本 聡	脇本 聡	博明	博明
	森島 弘正	森島 弘正	利盛	利盛
書記	牟本 大信	牟本 大信	孝幸	孝幸
会計	尾松 和伸	尾松 和伸	幸樹	幸樹
プリテン	藤岡 宏	藤岡 宏		
連絡主事				

【今月の聖句】

「あなたがたは、現にそうしているように、励まし合い、お互いの向上に心がけなさい。」

テサロニケの信徒への手紙 5章 11節

【4月例会プログラム】(YMCAサービス・ASF強調月間)

とき：2013年4月9日(火) 18:15~20:15
ところ：大阪土佐堀YMCA 9階

司会 森嶋 弘明
北村 知三会長

1. 開会の鐘
2. クラブソング
3. ゲスト・メネット紹介
4. 会長報告
5. 「日々の糧」斉唱・晚餐
6. スピーチ 伊田洋子さんと万並由美子さん
テーマ：「手話通訳の現状と手話基礎について」
7. 誕生日・結婚記念日のお祝い・ニコニコ
8. インフォメーション
9. YMCAニュース
10. 閉会の鐘

受付：牟・石橋・脇本メネット



3月例会での田尻メンへのお礼



台中市との共同文書調印
(8Pの台湾に吹く風参照)

【第2例会のご案内】

とき：2013年4月16日(火) 18:30~
ところ：大阪土佐堀YMCA 6階 601号室(変更になることがありますので、ご注意ください。)
なお、引続きHH拡大委員会開催が19:00から開催されます(書記報告参照)。

今月の誕生日：清水汎（03）

メネットさんお誕生日：尾和宣子（22）五条久美子（30）

ご結婚記念日：北村知三（22）

【聖句に寄せて】

宇野 義男

キリスト教は愛の宗教だといわれます。イエス・キリストの言葉も実に多く「愛」の行為が目につきます。しかし、愛は言葉だけではなく、行為そのものにあるはずで

そして、この愛とは他者に心を配ることだと思えます。私たちが社会を明るく平和に、また、生活を豊かなものにしていきたいと考えるとき、もっとも大切なことは、身近なところの平和が整えられているかどうかが問われます。子どもと大人、および、大人同志がおたがいに話し合い、相談し合い、思いやりのある状態つまり、子どもと大人、および、大人同志の心が正しく溶け合い、結びついているときだけ、そこには、ほんとうの意味での平和があるのではないのでしょうか。

【連絡主事の交代】

大阪クラブの連絡主事が交代になります。田尻連絡主事が4月から東京にある日本YMCA同盟へ出向となります。後任の連絡主事に藤岡宏樹さんが決まりました。藤岡さんは、長年幼児教育に尽くされ、現在松尾台幼稚園園長をされています(次長)。4月1日からは土佐堀の本部に異動になるとのことです。田尻さん同様に、大阪クラブの活性化にご尽力いただけたと思います。宇野メンも藤岡さんをよく存じ上げていると言われ、大阪クラブでの活躍に期待していると言われています。(文責松原)

【3月出席状況】

3月出席状況	在籍	例会出席	アメ ツイ ブク	メ ネ ット	ゲ ス ト	ビ ジ ター	出席率	二献 コ金 ニ コ
正会員	16	14		3			87.5%	13,000円
功労広義会員	2							
合計	18	14		3				

3月例会の出席者

メネット：北村信子メネット会長、脇本真知子、崔金順メネット

ビジター：なし

ゲスト：なし

【クラブ役員会報告】報告者：書記 牟 大盛

日時：2013年3月19日(火) 18:30~19:00

場所：大阪土佐堀YMCA 601号室

出席者：北村会長・脇本博・條・能勢・五条・田尻・松原・牟書記・脇本真知子メネット

協議事項

1) 2013年4月9日(第2火曜日)(YMCA・ASF強調月間)土佐堀YMCA9F

講演：手話通訳士 伊田さん、万並さん

題目：「手話通訳の現状と手話基礎について」

準備： 要確認 謝礼：@1万円

司会：森嶋弘明メン 受付：牟・石橋メン、脇本メネット

食事：シンエイフード（弁当@¥1000）

- 2) 5月度例会：5月14日（第2火曜日）開始時間を19:00～21:00とする。
特別例会 「HHリーダー会発足祝賀会」と位置づける。
：リーダー会報告と活動方針などについて
場所：肥後橋 「徐園」 宴会形式
司会：松原メン 会費は@¥5000 -
（但し、HHリーダー、YMCA関係スタッフ、手話通訳士は、無料招待とする）
：今後 YMCAスタッフと手話通訳士は恒久的な招待者とする事を確認。
- 3) HH支援事業の件
- 2013年HH国内キャンプ（8月9・10・11日）実施推進について
：3月19日 HH基金拡大委員会（クラブ会員・HH OBOG）実施
（別途拡大委員会報告書参照）
：4月16日（第3火曜日）19:00～ HH第2回基金拡大委員会
- 4月第2例会は、18:30分から持つこととする。
- 5) 2013年11月の大阪クラブ85周年記念事業の件
- 「85周年実行委員会」構成と運営の件：尾和実行委員長を選任し、原則として毎月の第 例会時に
合わせて、実行委員会を開催する。
- 「創立85周年記念例会」は、2013年11月2日（第1土曜日）午後2時から土佐堀YMCA
903号室にて、11月例会として開催する。
：創立例会の持ち方については、パネルディスカッションとし、詳細は実行委員長へ一任。
- 聴覚障ガイ（HH）支援基金の残高の積み増しのFUNDについては、北村会長より2月プリテンに
掲載した「HH基金への献金のお願い」のとおり推進する。
- 第1報を4月のプリテンに掲載する。（書記が担当）
- 8) その他：
次次期会長候補の件：クラブ運営安定のため、早々に次次期会長を選任する旨を確認した。
12月既退会の武村メンの代わりにのトラベルコーディネーターの入会の件
：北村会長より現在継続交渉中である旨報告があった。
パサデナクラブ（IBC）ホームステイ受け入れの件：
脇本博IBC事業委員長より、パサデナクラブからの候補者の連絡待ちとの報告があった。
- 9) プリテン編集の件：
松原プリテン委員長より編集方針の発表があり、了承された。

【85周年記念例会ご案内（第1報）】

書記 牟 大盛

大阪ワイズメンズクラブ創立85周年記念例会ご案内（第1報）

例会日時：2013年11月2日（第1火曜日） 14:00～17:00

場所：土佐堀YMCA 903号室

登録費：無料

一部：記念例会セレモニー

二部：パネルディスカッション

「大阪クラブの過去・現在・未来について」

その他：

聴覚障がい（HH）支援事業に関する報告など

【3月例会報告】

石橋 ルキ

3月例会で、昨年末ご入会の能勢嘉則メン、村井達司メンの「わが半生とボランティア」について卓話があった。ICレコーダーで録音、記事を刻銘に記述したので、長文となっているが、新入会員のお人柄をしのぶ自己紹介になっているので、丁寧にお読みください。

ミスター能勢のドカベンライフ

学校を出て、最初に就職したのはタイヤ屋であったが、1年で辞めた。今の会社に落ち着くまで4つ職を変えた。屋台を引いて“うどん屋”をやった。夜中など、キツイものを感じた。店を借りて、“手打ちうどん店”もやった。これも1年で止めた。友人がアリコジャパンなる会社に入社して、一緒にやらんかと、会社を見学に行ったところ、支店長室には分厚いシャギーカーペットが敷き詰められ、事務所の綺麗なことに圧倒されて、入社した。今はメットアリコと言うが、現在入社35年目になる。

アリコジャパンは‘73年に日本で保険業を始めたが、私の入った‘78年でもコンプライアンスや社員マニュアルなど、何んにもなく、“どうしたらいいんだ”と聞くと、そんなもん自分で考えろ、という調子。

無手勝流で営業をはじめたが、無理な苦勞はしたことなく、お客さんに可愛がられるままに成績を上げて、入社2年目に新人トップ賞をいただいた。私は後輩に、営業のノウハウを教えてやったり指導している内に、アシスタントマネージャーに任命され、岡山へ行ってくれと命じられた。

岡山駅前の一等地のビルのドアを開けると、机と電話がズラッと並んでいる。人は一人も座っていない。“どないするんですか”と聞くと、お前がこれから社員を集めるんだ。“エーッ”。まず新聞に求人広告を出してみた。反応はゼロ。仕方なく商店街で誰彼なく声をかけて営業マンを勧誘した。

同じように声かけをしているスカウトマンの仲間がいることを発見。自衛隊、ミシンのセールスマン、風俗マネージャー求人などである。一番効率がいいのが職安の入口で捕まえることと分かって、行って見たところ、職さがしする人間より、スカウトマンの方が多い。

しかし、ここで5、6人確保し、社員が社員を呼び、1年8ヶ月で18人になった。これからは面白くなるぞ、と思った瞬間に静岡へ行けとの命令。静岡のドアを開けると机と電話がズラッと、岡山と一緒に。1年間で格好をつけたが、今度は東京へ行けとのこと。私は大阪人なので、東へは行きたく無いので、初めて「転勤拒否」。

どうにか大阪へ返されて今に至っているが、身分はマネージャー（支店長）です。35年前は大阪支店で事務員入れて14人で、支店は北海道、東京、大阪、広島4つ。今は支店は200。社員は全国で5,100人。大阪ではうち1,000人。

マネージャーは裏方で、直接営業をするコンサルタント（営業マン）を指導し、アドバイスし契約について行ったり、失敗したら謝りに行ったり、レポートを書いたり雑役です。

私は43歳で死ぬと思って、酒は飲むわ、ハーレーに乗りますわで、好き勝手な生活をしていましたが、43歳でクイックターン。普通の人間に戻りました。今は59歳ですが、マネージャーは一定の成績を上げている限り定年はなく、最近、少しは社会に役立つことをしようと聾啞者との対話をするため、手話を習っています。

会社も4つの社会貢献のテーマを決めていますが、私は3歳から18歳までの難病の子供の夢を叶えるメイク・ア・ウィッシュジャパンにドナーシップをしています。

緻密なマーケッター村井さん

私は小・中・高、脇本さんと同級だが、大学は横浜国大機械工学科へ行った。学生運動華やかな時で、横浜は中核派の巣。座間とか横須賀に米軍が駐留しているが、そこで、訳もわからんままに、デモして暴れまわる。横浜国大は3分の2が自主留年する強者ぞろいであったが、私は卒論書いて4年で卒業した。学校はロックアウトされていたから5月の卒業だが、商社の就職試験を受けて、これは来年からの勤務の入社試験と思っていたら、すぐ来いと言うことで、工作機械の輸入・販売会社のセールスエンジニアをしばらくやっていた。

オヤジは近江八幡出身で尋常小学校を出て自転車屋に丁稚奉公していた。自転車修理から叩き上げで、40歳過ぎた頃モータリゼーション（自動車普及）が起こり、独立して自動車部品商をすることになった。部品を自動車整備工場や問屋に売るのが、オイルショックやオートバイのカミナリ族に対して、“免状を取らさない、乗せない、売らない”の三ナイ運動が起こったり、主力のバイク部品は売れ行き不振になったりした。

私が事業を継承したが、トヨタ、ニッサンなどのメーカーはユーザーの囲い込みを強め、コツコツ、細々と部品販売を続けた。現在はバイク、自転車部品を主にバイク、カー用品の大型販売店（ドライバースタンド）ホームセンターに卸している。1982年バイク販売量は334万台でピークを迎え、YH（ヤマハ・ホンダ）戦争で毎月新車を発表。バイク全盛時代となった。ところが、2012年にはピーク時の13%45万5千台に落ちてきた。代わりにバッテリー付きのアシスト自転車が40万台に伸びてきて、ますます伸びてくると思われる。

息子が38歳の時に事業を継承してくれて、今に至っているが、BEtoBEと言うWEBサイトでの通販で業界トップの座を占めている。会員制であるが、会員数は42、600会員。2015年には10万会員を目指している。10万パーツを整理収納倉庫を有し、パーツの適合性問い合わせのカスタマーセンターも整備されている。紙媒体のカタログ販売も5万部発行している。

ボランティアとしては、難波高島屋前での献血で、ハッピーを着て呼び込みなどを行っているが、最近、未開地区医療支援で「アフリカ眼科医療」を支援している。徳島大学眼科の内藤毅准教授は25年間ネパールで短期滞在のアイキャンプを行い、多数のネパール人失明者を白内障手術で治し、同国内での、眼科医師の養成に成功したので、アフリカ、モザンビークに眼差しを移し2008年から2012年までに、1～2週間滞在し、現地人失明者多数の白内障手術を行っているもの。

単に病人の治療のみならず、現地人研修医を立ち合わせ、眼科医養成にも力を入れている。

【大阪ワイズメンズクラブ連絡主事退任にあたり】

田尻 忠邦

私の記憶が正しければ、大阪ワイズメンズクラブの連絡主事に着任したのは、2002年の2月からだったと思います。それから11年間、振り返ればあつという間の出来事でした。その間、大阪クラブのみならずと様々なプログラムに関わる機会を与えていただきましたことは、感謝に堪えません。

それらのプログラムには、アフガニスタン難民支援チャリティ映画会「アイラブピース」、HHキャンプOB、OGのチームをスポンサーして参加したチャリティラン、同じくHHキャンプOB、OGと大阪クラブのメンが協働して焼きそば屋台を出店した土佐堀カーニバル、我が息子も娘も派遣していただいたIBCであるパサディナワイズメンズクラブとの留学生交換、1年前倒してクラブ創設80周年を記念して作ったヤマブキ色のポロシャツを着て、2007年のHH国際キャンプの閉会式を大阪YMCAと共催したこと、クラブ創設80周年記念式典など一つひとつの出来事が今でも鮮やかによみがえってきます。

いうまでもなく、大阪クラブの社会奉仕事業は、クラブの設立70周年を記念して創設された聴覚障がい青少年支援基金を運用して始められた、中高生のための英語学習支援クラスでした。当時は、聴覚支援学校

から高校、大学の受験をする場合、どうしても英語の試験が足かせとなって進学もままならないという状況でした。そのような中、大阪ワイズメンズクラブの取り組みは画期的なものだったと思います。特にクラスの開講に先立ち、受講生の学習環境を整えるために要約筆記通訳者の養成クラスも開講され、授業のサポートをするボランティアの養成もされました。大阪クラブのメンやメネットさんも数名受講されています。社会的課題に取り組んだ素晴らしいプログラムだったのですが、私が担当してからは、時代の流れかノーマライゼーション（障がい者の社会進出機会の拡大）が進み、大学、高校入学試験のハードルもかなり低くなっていました。同時に聴覚に障害を持つ生徒も支援学校ではなく、普通校を選択する数が増えだし、英語学習支援クラスの広報の焦点がぼけ始めました。市内各区のボランティアビューローにもパンフレットを置いてもらったりしましたが、一時は10数名いた受講生も数名にまで減ってしまいました。

拡大基金員会が招集され、英語学習支援プログラムは一応の社会的使命を果たしたとの意見が委員の趨勢を占めました。問題は次の社会貢献事業をどうするかということでした。当時の錦織総主事のアドバイスもあり、支援の対象をHH国際キャンプに変更することになりました。しかしながら、HH国際キャンプの参加者も一時の勢いを失い、減少傾向にありました。そこで奮起してくれたのが、HH国際キャンプの参加者OB、OGのみなさんでした。気軽に参加できる聴覚障がい者を対象にした国際交流プログラムは、HH国際キャンプしかない。自分たちの後輩のためにもこの素晴らしいプログラムを存続して欲しいとの熱意の表明がありました。そこで、HHキャンプの理解者を増やし、HH国際キャンプの潜在的な参加希望者を増やすべく企画されたのが、HH国内キャンプでした。2011年8月に六甲山YMCAで実施した第1回の国内キャンプは、キャンパーの参加人数は7人と少なかったですが、手話通訳者もこれまで係先生だけだったのが、ボランティアとして伊田さんの参加を得て2名体制が組め、大阪クラブからも牟メン、脇本メン、北村メン、脇本メネットが参加していただき、パサディナから交換留学生として来日中のニック・ヘルド君も加わり、初めてづくしのキャンプとなりました。何といても、一番の成果はキャンプリーターとしてOB、OGの西村さん、高土さん、桜木さん、小山さん、吉田さんが参加してくれ、立山スタッフの指導のもと、1泊2日のプレキャンプも含め、企画運営のすべてを自分たちでやってくれたことです。

この国内キャンプが契機となって、HHキャンプリーター会の組織化も加速度的に進み、昨年末正式に発足しました。これからは、大阪ワイズメンズクラブと共に聴覚障がい者の地位の改善と発展に寄与し、健聴者との橋渡しの役割を立派に果たしてくれるものと期待しています。10年近い年月がかかりましたが、大阪YMCAの会員活動に連なる若者のグループ作りに関わられた事はワイズメンズクラブの連絡主事冥利に尽きるの一言です。本当にありがとうございました。

【田尻連絡主事への送別のことば】

会長 北村 知三

10年のあいだ大阪クラブの連絡主事としてご奉仕いただきました、大阪YMCAの田尻連絡主事が3月末をもってその任務を終えられ、4月に東京にある日本YMCA同盟へ出向されます。

大阪クラブの連絡主事をされた方々のなかで、田尻さんほど深くクラブに係わってこられた方は居なかったのでは、と思われまふ。特に脇本会長時代での、チャリティー映画会と、聴覚障がい支援事業としての国内HHキャンププロジェクトにおいて、大きな成果を上げることができましたのは、田尻さんの企画運営へのリーダーシップ的なご奉仕によるものが大きかったと思ひます。またパサディナクラブから派遣留学生を受け入れたときなど、その豊富な英語力とともに、ホームステイの際ご家族特に田尻メネットさまのご奉仕にも感謝を申し上げたいと思ひます。

田尻さんの大阪クラブへのご奉仕に感謝しますと同時に、今後3年程とお聞きしている、日本YMCA同盟でのご活躍と、ご家族と離れての生活では健康を第一としてお身体にご留意されまふようお祈りしております。

【田尻連絡主事に贈る言葉】

脇本 博

「田尻メン ありがとうございます。

新たな職場 Y M C A 同盟での新たなお仕事頑張ってください。

新たなご発展を祈っています。」

田尻メンが我が大阪クラブの連絡主事としてクラブの一員となって、はや10年以上の年月と伺い、改めて時の流れの速さに驚嘆します。長いお付き合いということになりますが、本当に短く感じられます。それだけ田尻メンとは濃縮した時間を過ごせたのかもしれませんが、田尻メンにはいろいろ面でご指導いただき言葉では言い表せないほど大変お世話になりました。大阪クラブにおける田尻メンのご功績は数知れず、沢山ありすぎてここには書ききれません。クラブの総意ということではなく、私個人としての思いを語ることでお許しいただきたいと思います。そのなかの2つだけ上げさせていただきます。

一つはチャリティ上映会、もう一つはH H (Hard of hearing: 難聴者) キャンプのO B、O G 達の組織化です。後輩たちのために、立ち上がった彼らを励まし、大阪クラブとともにこの事業を展開する素地を作ってくださいました。

田尻メンが当クラブに在籍される前、大阪クラブは諸先輩のご努力により、青少年聴覚障がい者教育支援基金を立ちあげ、Y M C A とともに長年にわたり、その事業を推進してまいりました。アジア地域の各Y M C A が担当地域で持ち回りで主催する国際H H キャンプの支援や大阪Y M C A が開講していたH H のための英語教育講座や一般の人達を対象とした要約筆記講座など、大阪クラブが中心に支援していました。講座に関しては、当時はまだH H の大学受験や社会進出への垣根が高く、学力をつけるため多くのH H の学生が受講していました。時代の趨勢とともに、良いことにH H に対する社会の理解も進み、入学や就職にたいする世間のハードルも十分とは言えないまでも、多少は低くなり、そのため受講者が減少し、それらの講座は閉鎖もやむなきにいたりしました。

私たちがこれから、青少年聴覚障がい者教育支援事業をどのように展開していけば良いのかいろいろ迷っている時期に田尻メンが連絡主事として、赴任されました。田尻メンはクラブのことを前々から調べておられたのか、大阪クラブのこの事業をよく理解されていました。当時の錦織総主事に相談しつつも、事業の方向性をやや失いかけていた私達に、聾の女優 忍足亜希子さんとアフガニスタン紛争で足を失った義足の少女との友情をえがいた映画「アイ ラブ ピース」のチャリティ上映会をしてはどうかと話を持ち掛けられたのが田尻さんでした。

私達はこのような企画は全く未経験でした。いろいろ議論の末、クラブ一丸となってやってみようということになって、クラブ全員P R を兼ねて他クラブを訪問し、ワイズメンズだけでなく、一般の方達にもチケットを購入していただけるよう、配って歩きました。このときの他クラブ訪問で一番熱心に活動された清水メンや当時在籍しておられた三品メンのご活躍ぶりは忘れることができません。お蔭さまで上映会は多大の収益をあげ、Y M C A を通じてアフガンの難民支援にあてることができました。その年度のワイズメンズクラブの最優秀クラブとして西日本区からもお褒めを頂くおまけまでついてきました。

他のワイズメンズクラブの皆様も大阪クラブがやるならと、全面的に支援してくださりワイズの皆様の友情をありがたく思うと同時にワイズメンズクラブの良さが理解出来ました。またY M C A とそれを応援するべく組織されたワイズメンズとの協働とは、どのようなものが、Y M C A とワイズの理想的な協働事業形態を考えることもチャータークラブとして責任ではないかと多少この事業を通じて考えるようになりました。

H H を主人公とする映画のチャリティ上映会を開催し成功を収めたことで、メンバーの意気も上がりました。しかし、H H 支援事業に対してY M C A は少しづつ積極性を欠くようになり(あくまで当時の私見です。) させて我々の目指す社会奉仕事業とは何だったのかと考えざるを得ない状況になりました。青少年H H 教育支援があったのではないかと、しかし受益者たるH H の若者達にとって、そのような事業は時代の流れとともに、

もはや不要となったのではないか？、この事業を中止しようか？、また先輩たちが苦勞して蓄えてくださった基金を他の事業に転用しようか？、様々な意見が出ました。しかし、約束は守らなければなりません。他の事業に転用するとなると、この事業を理解して、多額の淨財を寄せてくださった方に申し開きができません。過去国際HHキャンプに参加したOB、OG達に集ってもらい大阪クラブの意見としてクラブの苦惱を率直に申し上げました。

彼らの意見は、青少年時代に国際HHキャンプに参加して、HHの仲間と国際交流をし、大変実りの多い経験をした。国際HHキャンプ支援を大阪ワイズは是非続けて欲しい。私達の後輩たちのためにも、YMCAは是非ともこの事業を中断しないでほしい。我々もできるだけ協力するという話になりました。西村智恵さんをはじめとして、多くのOB、OG達が立ち上がってくれました。

早速、国際HHキャンプの下準備として、六甲YMCAでの国内キャンプが開催されYMCAも全面的に私達を応援してくれました。OB、OG達もすでに30台なかば、ご自身のお仕事もお忙しいなか、献身的に後輩たちのため奉仕され、頭の下がるおもいです。

この動きは京都YMCA傘下の京都プリンスクラブが支援するHH小学生を中心とした、京都マイマイクラブにも話が伝わり、大きな広がりを見せつつあります。今年開催される阿南キャンプは前回の六甲キャンプより多くのキャンパーの参加が期待されます。また米国パサデナワイズメンズクラブからのボランティアも参加することになっています。一度消滅しかけた事業が皆の情熱で復活させたこのような広がり、大阪クラブのメンバーの力だけによるのではなく、聳学校教諭としてご活躍され定年後もその方面で献身的にご奉仕されている條メンと、常にOB、OG達との人間関係を大切にされていた田尻メン、それに他クラブでは西クラブの井上メン、センテニアルの新保メンのお力に負うところが大きいです。

田尻メンが大阪クラブにお越しになって大阪クラブは再生しました。大阪クラブ中興の祖と言っても過言ではありません。この度、YMCA同盟のほうへの異動があり、私達は残念でなりません。戦力が半減したような思いに駆られますが、田尻メンが事業再生のために撒いた種は、後に続く後輩たちへの大輪の花に育って行くと思います。

同盟に移られましたら、いままでとは違う観点からのお仕事があると思います。YMCAの発展のための課題解決に向けて田尻メンのさらなるご発展をこころよりお祈り申し上げます。たまには、大阪クラブにお越しただいて、ご指導、ご助言いただければありがたいです。最後に全く個人的なことでありますが、大阪YMCA125周年記念で大阪YMCAが主催し、大阪クラブが共催した国際HHキャンプのセレモニーでの田尻メンの同時通訳の実力、また誰も足元に及ぶことのできないリズムのある格調の高い英文を書かれる抜群の語学力、国際的センスの良さ。このような先生に一度英語を習ってみたかったです。

【台湾に吹く風】

大阪YMCA総主事 末岡 祥弘

この2月に台中市との共同文書調印の為、台湾を訪問しました。新幹線、台中駅まで迎えてに来てくれた台中YMCAのスティーブ副総主事は車の中で「市役所を見たらきっとびっくりしますよ」と言います。駐車場に着くと1万人は集えるであろう広場を前に斬新なデザインの市役所、議事堂、高層オフィスビル群が建ち並び、街は著しい発展を見せていました。台湾社会は経済成長と共に日本以上のスピードで少子高齢化の社会へと変化しています。すでに人口の10%強が65歳以上の高齢社会になり、介護が必要な人の増加にどう応えていくかが社会の大きな課題になっています。

これらの中で、昨年大阪YMCAと台中YMCAは協働して「介護予防に関する若い人」を育てるため、台中市で初めて「介護予防指導者講習会」を開催しました。「関心のある若い人が100人くらい集まればいいかな」「台湾では介護予防といってもまだまだ関心が薄いよ」様々な声の中で、20代の若者が中心になって開催された講習会には1000人を越える人が集まりました。居合わせた台中市の福祉部長は参加者の熱気

とニーズに驚き「YMCAと協働しよう」とこの時決めたと言います。

「台中市・台中YMCA・大阪YMCA」による「高齢者に優しい街づくり共同宣言」調印式が市役所カンファレンスルームで執り行われ、多数のTV報道各社から矢継ぎ早の質問が出ます。聞かれた内容は、日本の経験とコンセプトそして具体的なプログラムへの期待でした。

大阪YMCAは創立130周年を期して、世界各地のYMCAと協働して若者を育てる「大阪宣言」を表明し、その具体化を図るために「東アジアYMCAアーバンネットワーク」を設立しました。それは、各YMCAが行っている「社会課題に対する知恵とプログラムを共有する連帯システム」を作ることになりました。今回、台中市に来て行政はじめ数多くの方々が「YMCA」のグローバルブランドを信頼し、このネットワークに希望を持っていることを実感しました。台中市の部長が「YMCAしかない!」と言った言葉にその大きな期待が読み取れます。

アジアの社会は急速な経済発展と共に社会構造に大きな変化が起っています。大阪YMCAで私たちが経験していること、そしてアジアの各YMCAが行なっている実践。これらが溶け合って、社会をよりよく変えていこうと行動する青年が双方の社会で生まれてくるとき初めてグローバルリーダーシップと呼ばれる力が生まれてくると思われます。アジアのYMCA間で始めたこのネットワークで青年達が育つとき日本の社会も明るく力強くなる事を実感します。

2月の台中の街を吹く暖かな風は、木立の中をしなやかに吹き抜けていきました。

【メネットコーナー】

【中西部雑の集い参加報告】

脇本 真知子

3月2日(土)「雑の集い」と銘打って中西部のメネット会の12名の有志があつまりました。今後のメネット会をどのように運営するか、いろいろな話ができました。時代もかわり発足当初の社会状況もずいぶんと変化しております。話の内容としては次のとおりです。

中西部の状況を見ますと、メネット会のないクラブもあり、女性がメンとして活躍なさっているクラブもあります。メネット会の不要論も出てきました。

しかし、西日本区ではメネット事業が事業の一部門として認知され、不要論の独り歩きも問題がありそうです。また、メネット運動についても、各メネット様の考えも様々で、一元化できません。今後も皆でこのような楽しい会をもって、話し合っていこうという結論になりました。

お世話いただいた和田さん(高槻ク)と井上さん(西ク)ありがとうございました。

大阪クラブからは崔メネットさん、脇本メネットが参加しました。

【2013年第1回聴覚障がい青少年支援基金拡大委員会議事録】 書記 牟 大盛

日時：2013年3月19日(火)午後7時00分～9時00分

場所：大阪YMCA会館6階601号室

出席者：(大阪クラブ)北村会長・脇本博主査・田尻・條・牟・五条・能勢・松原メン

脇本メネット

(HHリーダー会・通訳士)西村会長・高土副会長・小山さん・桜木さん・勝矢千晶さん

協議事項：司会進行：田尻忠邦連絡主事

1. 2013年8月9・10・11日(金 日)阿南海洋キャンプでのHH国内キャンプ準備の件

1) 案内文の準備事項について

・第1報作成：作成者と作成時期：

：5月連休明けを目途に、HHリーダー会でたたき台を作成

(4月16日の拡大委員会で公表する)

- ・大阪YMCA主催・大阪ワイズメンズクラブ共催確認の件
：連絡主事を通して承認を取得する運びを確認する。

2) キャンプ参加対象の件

- ・中・高・大学生・を対象とする。(小学生は「マイマイ」へ紹介したりする。)
- ・京都プリンスクラブ 「マイマイ」への呼びかけ
：説明会などとおして、マイマイの担当者と密に連絡を取る。

3) 募集・広報時期の件

- ・広報開始時期について：5月連休明けと同時に広報活動開始を確認
- ・募集開始と締め切り：募集はキャンプ2カ月前の6月、締め切りは夏休み前の7月20日前後を確認。

募集対象：OBOGをはじめ、過去のとおり新保さん等の支援を広く仰ぐことを確認

聾支援学校など

HHリーダー会関係

西日本所在YMCA

その他

2. HHリーダー会と大阪YMCA新会員制度について

：今日現在はYMCAの正式認定団体ではないが、大阪YMCAにリーダー会の発足の趣旨を伝えており、土佐堀YMCA(大阪Yは総主事室)の会員活動の一環とする方向で動いている旨、田尻主事から報告があった。

3. HHリーダー会主催「手話講座について」

：まだ、リーダー会が正式認定団体でないので、手話講座受講料を頂いての会館使用には時期が早いので、大阪ワイズメンズクラブの名前で教室を借りるか、大阪生涯学習センター(大阪第2ビル)などの使用をお勧めする旨、田尻連絡主事から報告があった。

：同時に、「HHリーダー会」の会員には、YMCAの新会員制度の「ユースボランティア」リーダーとして年会費1万円のYMCA会員にぜひなって頂きたいとのお願いがありました。

4. 次回HH拡大委員会の開催日時について

2013年4月16日(火)午後7:00より、土佐堀YMCA 601号室で開催予定。

【再掲】

【大阪ワイズメンズクラブ85周年記念事業「聴覚障がい青少年育成基金への献金のお願い」】

会長 北村 知三

大阪ワイズメンズクラブは、1928年11月10日に日本で初めてのワイズメンズクラブとして設立されて以来、2013年の今年に85周年を迎えることとなりました。その間日本全国に多くのワイズメンズクラブを立ち上げられ、ワイズメンズ活動を継承されてきた立派な諸先輩のために、またそのワイズスピリットをさらに広げていただいている全国のワイズメンの方々のために、大阪クラブとして、ワイズメンの原点の灯火を今後とも後世に受け継いでいかなければなりません。

15年前創立70周年記念事業として始まりました、聴覚障がい青少年育成支援事業は、いろいろな変遷を経て、一昨年六甲で初めての国内HHキャンプを実施し、昨年の香港マカオでの国際HHキャンプでも、キャンパー、リーダーや通訳者の派遣に多くの人的資金的な支援をすることが出来ました。いまではこの事業は大阪YMCAとの協働事業として、クラブの社会奉仕活動の基幹事業となっており、クラブの誇りとも

なっております。また昨年HHキャンプOBORGの有志により設立された、HHキャンプリーダー会もこの事業の発展にとって更なる広がりとなっております。

このようにここ数年の基金の出資は、その意義においてとても有効な活用ではありましたが、支援活動の拡大とともに、基金額の方は少なからず減少しております。今年阿南での国内HHキャンプを企画準備しており、また来年の国際HHキャンプ実現に向けての活動においても、十分な基金の積み立てが重要な活動の要素となっております。

ワイズメンズクラブの理想としてこの事業を継続していくことは、大阪YMCAにとっても大阪ワイズメンズクラブにとっても大いなる希望と誇りであります。みなさま、今年度85周年記念行事を行う意味を深くご理解いただき、85周年記念事業として基金の積み増しのために100万円の募金を行いたく、何卒皆様の積極的なご協力をお願いいたします。

募金金額	100万円
	一口1万円 3口以上お願いします
募集期間	2013年11月まで
振込先	三菱東京UFJ銀行 中之島支店
または 持参	普通預金口座 092-3826152
	口座名 大阪YMCA視聴覚障害青少年育成基金

【今後の行事予定】

今後の行事は、次のとおりです。積極的な参加をお願いします。

1. 宝塚クラブ25周年記念例会・・・5月25日(土) 受付10:30 時間:11:00~15:30
於:宝塚ホテル 記念講演:細川佳代子氏 アトラクション:関学フラガール
会費:9000円
2. 第16回西日本区大会・・・6月22日(土)~23日(日) 於:名古屋能楽堂
参加希望者は、牟 大盛書記宛(090-8195-0914 fax 06-7397-3337)ご連絡ください。

【CSより】

献品は下記住所をお願いします。

「釜ヶ崎いこいの家」 〒557-0004 大阪市西成区萩之茶屋2-5-23 : (06)6631-2169

【編集後記】

桜が満開となり、24節気の一つである清明節が間近となりました。清明は、清浄明潔の略であり、すべての生命が春の息吹を謳歌する時節です。大阪クラブでは、連絡主事が交代されました。田尻主事の功績は、多大であり、プリテンの編集においても、的確な指摘・助言をいただきました。心から感謝を申し上げますとともに、ますますのご健勝をお祈りします。なお、連絡主事の交代に伴う都合により、YMCAニュースは、休載しました。(編集委員:松原伸幸)